

教育学関連諸学会の連携へ向けての提案

教育哲学会の森田尚人代表理事から、昨年 12 月に私宛で、「教育学関連学会共同シンポジウム」の提案がありました（別掲）。そこでは、今日の教育研究が学際的性格を強め、隣接科学との関係が強化されていることをふまえつつ、教育学が教育という歴史的・社会的な営みを対象とする学問であるかぎり、このことを軸に多様化する教育研究を共通の土俵につなぎとめる学問的努力が必要であることを強調しています。そのうえで、教育学関連の専門諸学会がこれまで積み重ねてきたそれぞれの学問的蓄積をお互いに承認したうえで、なお教育学がさまざまなサブ・ディシプリンを統合するひとつの学問的分野として存在することの意義をあらためて議論するための、教育学関連諸学会の共同シンポジウム開催が提案されています。

日本教育学会でもこれまで、教育学の総合学会として、諸ディシプリンを統合し教育学のよってたつアイデンティティの今日的なあり方を追求するための方法を、様々な形で模索してきました。機関誌『教育学研究』での特集や、学会大会のテーマ型発表、特別課題研究などにその一端が示されています。そうした立場からすれば、今回の教育哲学会の提案は、教育学会が追求してきた課題と軌を一にするものであり、積極的に受けとめるべきものであると考えます。学会理事会でもそのことが確認され、教育哲学会の呼びかけに応じて、共同シンポジウムの開催など、教育学関連諸学会の連携を図っていくことを提案することにしました。具体的には、まず 2012 年度にその第一弾として、いくつかの学会が中心となりシンポジウムを持つこと、そのシンポジウムでは、教育哲学会がコーディネートするセッションと日本教育学会がコーディネートするセッションの 2 つのセッションを設けること、また併せて、今後の関連学会の連携のあり方について協議の場を設けることを考えております。

本提案は、教育学関連諸学会に対して、以上のような日本教育学会の提案に賛同し、関連諸学会の連携促進に向けての議論に参加してくださることを、広く呼びかけるものです。

2012 年 3 月 3 日 日本教育学会会長 藤田英典